

おわりに

附属施設・附属校園は、平成 7 年及び平成 12 年に自己点検・評価を行いました。平成 16 年度の国立大学法人化以降、教育組織では大学院改組・学部再編がありました。学術情報研究センターと特別支援教育研究センターも発足いたしました。いろいろな再編が起こる中、各組織が自己点検・評価を行い、大学の中でのそれぞれの使命・役割を見つめ直し、明確にする必要があります。

折しも、平成 20 年度に行われる全ての国立大学への法人（暫定）評価では、附属校園には文部科学省国立大学法人評価委員会による評価が行われます。これは中期目標への達成度評価ですが、『「附属学校」の評価は、学校教育や大学・学部との連携（共同研究・教育実習等）の観点から、「附属学校」としての目的を十分に果たしているかどうかについて行う。』とされています。今回の自己点検・評価では、各附属校園の活動実績を積極的に挙げていただくようお願いいたしました。これらの成果を汲み取ってもらえるよう期待しています。

この報告書が、今後の大学における教育・研究・社会との連携の諸活動の一層の充実・改善に貢献するならば、本委員会として大きな喜びであります。

終わりに、報告書の作成でご尽力いただいた各附属施設・附属校園の各位の労に深く謝意を表します。

平成 20 年 3 月

点検評価委員会

委員長 山 邊 信 一